

いました。

江口忠博委員の総括質疑

○安部 隆委員長 次に、順位4番、議席番号3番、江口忠博委員。

○3番 江口忠博委員 私から、大きく二つの項目についてお聞きしたいと思います。市街地活性化と「かわと道の駅」についてということの大きな見出しの中にありますが、過日、観光交流拠点施設基本計画という冊子を概要版とともに2冊いただきました。この計画書を読ませていただいて、ある程度の背景にある数字も述べられておりますし、この計画書がまずあればよかったなあと思ったんです。多分市長も、一般質問の中でおっしゃってましたけども、順番がちょっと、これまでのかわと道の駅あるいは都市再生整備計画についての計画のあらわし方というのが少し後手後手になった点については、申しわけなかったというふうな言葉もいただいておりますけれども、この計画書がまずできていれば、我々も非常に議論がしやすかったと思ってるんですが、非常に立派に書かれた計画書だと思います。

内容を精査することからまず初めていけばいいのかなとは思いますが。これは、この計画書がありながらのコンサルを頼んでいろいろ数字をこれから調査していただくという本意みたいところをちょっとご説明いただければと思うんですが。

○安部 隆委員長 内谷重治市長。

○内谷重治市長 江口委員から、このたび遅くなって恐縮だったんですが、観光交流拠点施設基本計画を配布させていただいて、率直なご感想も含めて、ご意見をいただいたわけでございますが、このたびの補正予算で計上させていただ

いてる内容につきましては、3月の定例会におきましてやはり修正案を提出されて、全会一致でそれを可決されたということについては、さまざまな面で重く受けとめなければなりませんし、反省しなきゃいけない点が多々あるだろうということから、まず、かわと道の駅だけでなく、今回の都市再生整備計画全体像をやはり当初に示すべきであろうと。それは代表しての提案理由の中で全体像が見えないというお話がございました。これ、私はこの際の全体像というのは都市再生整備計画全般を指してらっしゃるものと受けとめまして、そうしますと、かわと道の駅の施設の概要とか、どういう機能、どういう目的ということと、あわせて花公園の機能あるいは目的、どのぐらいの施設概要ということ、それから街路事業にあわせて行う本町広場、これらの目的と、概要的なもの、それと同時にさまざまな道路関連あるいは道路路線で大体9路線ほど、それから河川の関係もございまして。そういった全体のセットの事業でございまして、これをところどころで示すのではなくて、まず全体像を示させていただくチャンスかなというふうに思ったところでございまして。

6年前に始めた、いわゆる第1次まち交、これは平成18年から22年までのやつは、残念ながらそういったものを一切示してなかったんですね。その都度予算に計上されてくるものを我々というか、当時私は議員でしたので、議会がそれを検討するだけにすぎなかったと、これはやはり反省すべき点だろうというふうに私は思っております。まず、少なくとも5年間の事業の全体像をやはり概要だけでも示させていただき、その中で可能な限り経済波及効果なり、あるいは集客の目標であったり、雇用の見込める内容であったり、そういったものもお示しすれば、いろいろ議論を深めることができるんじゃないかということで、今回経費を計上させていただいたところでございまして。

○安部 隆委員長 3番、江口忠博委員。

○3番 江口忠博委員 ありがとうございます。

そうしますと、例えばこれから計画されます駅前花公園という名前でしたっけ、フラワーパークでしたっけ、そちらであるとか、あと本町広場であるとか、そういったものの計画書も随時出していただけるというふうに考えてよろしいですか。それは、やっぱりコンサルの後にその計画書を作成されるのか。

○内谷重治市長 随時。

○3番 江口忠博委員 随時、つまりできた時点で花公園であるとか、ないですか。

○安部 隆委員長 内谷重治市長。

○内谷重治市長 これは1年契約になりますのでそうしますと、まず、かわと道の駅と河川公園の部分、ちょっと先ほど河川公園の部分抜けておりましたけれども、そこの部分のまずは概要は、確かに今回の観光交流拠点施設基本計画の中には触れられてるんですが、その後の、例えば実は今回の事業では想定していないレストランの部分であったり、加工施設の部分であったり、そういったところもある程度概要として将来的な構想も含めて、これは示す必要があるんじゃないかと思います。

今回、かわと道の駅の中身は、もちろん観光案内所とかトイレ、休憩所、そのほかに物産の販売として直売所あるいは物産館のスペース等々ございます。河川公園につなげていくわけですが、そういったものがかわと道の駅の中身なんですね。そうしますと、それにプラスして、例えば将来的に、これは別な事業を駆使していわゆる農業の6次産業化の部分、そういったものも必要と思われるので、そういった全体構想を1年間かけて示させていただくと、ただし、中間報告といたして、まずは今回3月の議会の当初案で示させていただいた部分についてはより詳細なものを中間報告として出させていいただいて、1年間終わった後に全体像をす

べて出させていただくという考えでおります。

○安部 隆委員長 3番、江口忠博委員。

○3番 江口忠博委員 済みません。ちょっと整理させていただきたいと思いますが、この基本計画書については、これはかわと道の駅とあと最上川の緑地公園、河川公園のほうですね。その計画書であるということなのですね。

それで、コンサルタントにかける調査というのは、都市再生整備計画全体の調査であるということで、その中にはフラワーパーク公園であるとか本町広場であるとかも全部含んだ、これからの経済波及効果の具体的な数字を出してもらおうということに理解してよろしいんですか。

そうしますと、この計画書自体は結構具体的に今回のかわと道の駅、あるいは公園についても書かれています。脈絡もそれなりにあるわけですね。私が先ほど申し上げたのは、これと同じような中身で、同じようなと申しましょか、趣旨で駅前の花公園だとか、そういったものの計画書も出していただけるかということなんですが、コンサルタントではなくて当局のほうからです。

○安部 隆委員長 内谷重治市長。

○内谷重治市長 市のほうではつくれませんので、その計画も実は昨年9月に補正させていただいて、これは国交省のほうの補助を受けて調査事業でつくったものでございます。したがって、市でつくったものではございません。

じゃあ、詳しいことをまち・住まい整備課長から。

○安部 隆委員長 浅野敏明まち・住まい整備課長。

○浅野敏明まち・住まい整備課長 お答え申し上げます。

ただいま市長からお話ありました観光交流拠点施設基本計画書につきましては、23年9月に補正予算で計上しました地域活性化基盤整備推進計画調査、これは国土交通省の補助を活用し

まして業務委託を行いまして、平成24年の3月に成果納品として納められたものがその基本計画書となります。以上です。

○安部 隆委員長 3番、江口忠博委員。

○3番 江口忠博委員 今、予算の出どころは、この間の産建委員会の協議会の中でもお聞きしたような気がします、この文書をつくられたのは国なんですか。

○安部 隆委員長 浅野敏明まち・住まい整備課長。

○浅野敏明まち・住まい整備課長 この基本計画書をつくるに当たりましては、観光交流拠点施設計画検討委員会を組織しまして検討をされました。その報告書をもとにして作成したというのがその基本計画書になります。以上です。

○安部 隆委員長 3番、江口忠博委員。

○3番 江口忠博委員 ですから、どっち、どなたがつくられたかということをお聞きしてるんですが。

○安部 隆委員長 浅野敏明まち・住まい整備課長。

○浅野敏明まち・住まい整備課長 業務委託の成果納品でありますので、コンサルのほうで作成していただきました。

○安部 隆委員長 3番、江口忠博委員。

○3番 江口忠博委員 どちらのコンサルでしょうか。

○安部 隆委員長 浅野敏明まち・住まい整備課長。

○浅野敏明まち・住まい整備課長 株式会社三洋設計でございます。

○安部 隆委員長 3番、江口忠博委員。

○3番 江口忠博委員 今、私は、この計画書は市のまち・住まい整備課のほうが中心になってつくってくれたのかなと思ったんです。大変立派に書けるなあと思うんですけども、そつなく書けるなあと思ったんですが、でも抜けてるんです、いっぱい。なものですか

ら、これをたたき台にして詰めていければいいのかなあと思ったんです。

どちらが書いた、だれが書いたということはこれはちょっと置いておきまして、やっぱり本当は市長もこういった計画書があって、ここで議員のほうといろいろ議論しながら煮詰めていきたいというのがそもそものお考えだったですよ、ということは私は拝察するんですが、それでよろしいですね、一言だけ。

○安部 隆委員長 内谷重治市長。

○内谷重治市長 私なりの考えとかありますが、やはり議会の皆様にしっかりと自分の考えさえお示しできるのは難しいと思っておりますので、やっぱり言葉のやりとりでしかなく、そういった計画書としてきちんと出すのは、残念ながら私には到底できませんし、また市の職員がそれをやる余裕は残念ながらない。したがって、本来は、以前江口委員からもいろいろございましたように、事業を行う前に通常民間でしたらそれなりの事業想定をした計画書などを立てて、シミュレーションなどを行いながら、十分事業として可能かどうかということを見きわめた上で事業の執行に当たるといいますか、そういったことだと思うんですが、それができないものですから、今回はできるだけ総体的にわかるものをコンサルティングのほうにお任せして、こちらの意向とか、あるいは市民の意見をくみ入れたものをつくってもらって、それで議会の皆様とご議論をさせていただければ非常にいい方向性が見出せるのかなと思ひまして、提案をさせていただいたということでございます。

○安部 隆委員長 3番、江口忠博委員。

○3番 江口忠博委員 議会の意見も、考え方もコンサルにぜひ聞いていただきたいななんていうこともちょっと思ったりしますが、コンサルタントの方々が出される数字というのは、一定の根拠もあって、それはそれは立派な数字が出てくるんだと思います。でも、私たちは、コン

サルの方もそうですけど、未来を確定的に予想することはまずできませんので、大体すべからずいろんな事業というものは、予算執行を伴う事業というのはいつのかけだと私は思ってるんですね。そのかけに値するだけのものかというところで、やっぱり我々も悩めますし、提案側も慎重にそここのところは提案されてくるんだと思うんです。そのための議論が、これはこの投資は投資に値するというふうなことがこちらにも腑に落ちていくということが大事だと思うんです。そのための議論あるいは熟議と言ってもいいかもしれませんが、それを本当はもっともっとやりたいんですよ。

コンサルタントの数字がひとり歩きするというのも心配ですし、もっともっとコンサルタントに頼んで裏づけ数字というものをを出していただく前に、もうちょっと議論したかったなというのはあるんです。というのは、市長がおっしゃるコンサルの数字というのは、裏づけというふうな形で我々も議会のほうも求めていたではないかというふうなことのニュアンスでもおっしゃっておられますが、例えば、私個人の考えで大変恐縮ですけども、道の駅ということ一つとらえてみましても、例えば国がつくる施設ではトイレとインフォメーション機能と駐車場ですよ、これで一応道の駅としては国の事業はまず終わるわけですけども、それが道の駅ということであれば、例えばトイレがあって、駐車場があって、一応の案内機能があるのであれば、今ではコンビニエンスストアが代行してしまいますよね。例えば、あの場所でありまして、ちょうど隣に、南側に駐車場も広くとったコンビニエンスストアが1店ございます。例えば、白つつじ公園の駐車場の市民駐車場を見ても、あれだけの台数が置いて、あとはトイレもあって、道路一本挟みますけども、菜なポートという一応直売機能、これからインフォメーション機能も加えることができるであろうああ

いった施設もあると、きれいなトイレをと考えますと、TASのトイレをお借りすればまずきれいに済ませるとか、機能的には道の駅という機能はもはやいろんなところで代用できる機能があるわけです。

今回は、道の駅の機能を使いながら国と一緒に、第2次の工事になるんでありましょうが、飲食機能であるとか直売機能であるとか、そういったものがあそこに併設されていくということがこれからは出てくるわけですね、これは計画書のほうにも、今後の計画として書いてありますが。私は、そここのところがこれから継続していけるかどうかということも一つ心配ではあるわけですね。ですから、道の駅という国の考える施設がゴーサインが出てしまいますと、当然それだけでは地域活性化には足りない。さっき言ったように、そうやってかわる施設がもう既にあるということを考えますとそれだけの機能では足りませんので、その後に併設されてくる施設のほうを活性化策のほうには重視して考えざるを得ない、考えなければいけないということになるわけなんです。ですから、コンサルの数字というよりも、私がさっき申し上げた道の駅そのものの価値、意義、意味というものも私は根本的に、個人的にはもうちょっと議論させていただきたかったというのがあります。

3月でしたっけか、私も触れたんですが、かわと道の駅と本町との回遊性の問題についてですけども、今回の計画書の中でも回遊性をこれからいろいろ模索、検討していかなければいけないということがありました。どのまちでも拠点二つ、三つできてしまうと、二つ、三つ拠点をつくるというのは人口20万、30万ぐらいの規模のまちが多いんですが、それでも小規模のまちでも何か二つぐらい拠点をつくりたがってしまうんですね。そうしますといつでも回遊性がなかなか整わない、誘導施策が整わないとい

うことで問題を抱えているように聞いています。いろんなまち視察で見せていただいても、そういった声が現地から上がってくるんですが、この本町通りに対して回遊性も含めて市としてどのようにかかわっていくか、当時の質問では、まちづくり会社に担ってもらいたいんだという市長のお考えがありましたけども、それも含めて今のご所見、あればお伺いしたいと思います。

○安部 隆委員長 内谷重治市長。

○内谷重治市長 回遊性の問題も含めて、今、江口委員のほうからは道の駅のお話を中心にいただきましたけれども、中心市街地の活性化という視点からの見方もこれは必要だということで、都市再生整備計画と中心市街地の活性化の計画、それから観光振興計画、それと街路事業、これを全部リンクさせなきゃいけないと。そこに加えてまちなかに登録有形文化財であったり、あるいは小出のほうにはやませ蔵美術館、あるいは宮のほうには文教の杜、丸大扇屋さん、それから長沼彫塑館といったいろんな資源をどういうふうにつないでいくかということを見なきゃいけないのではないのでしょうか。ですから、江口議員は拠点が二つ出てくると言うんですが、距離がどのぐらいかという、例えば、本町のところをどういうまちにするかというのは、これから市民の皆さん、あるいは商店街の皆さんと意見を出し合いながら、そして最終的には本町の皆さんが判断する部分というのはあると思うんです。でも、距離がどのぐらいあるかというと、500メートルなんて離れてないわけですよ、200メートル、300メートルなんですよ。

それと、なぜ国道沿いにしたかということ、287号線通る車が圧倒的に長井市の場合多いわけですし、287号線の一番交通量の多いのは、実はさくら大橋から長井橋の間であります。ですから、そのところにまず道の駅という拠点で、確かにコンビニにもありますけれども、コンビニと違った機能を持つもの、しかし、道の駅と

しては、これからつくるものは今ある道の駅よりも、やはりある意味ではナンバーワンではなくてもいいんですけども、特徴のある長井市ならではのもので考えなきゃいけないだろうということで、「かわ」と「道」ということを一緒に、かわと道の駅ということにしたわけですね。

ですからこの議論をしますと非常に時間がかかるんですけども、議会のほうは残念ながら計画策定にはやっぱり入らないという今までの大前提があったわけですね。ですから、これから中心市街地の活性化の基本計画をつくる際も、あるいは都市再生整備計画がある意味ではコンサルと一緒に練るときも、市民委員の皆さん、あるいは観光振興計画を練るときも、識見の方はもちろんですけど、市民の方に入っていて、そこにもし必要だったら議会からも代表して何名か入っていただくということは可能だと思います。しかし、今まではそれをしなかったということでもありますので、本当に計画の中身について議論できるのは、残念ながらこの議場でしかないわけですね。常任委員会というのはあくまでも報告とかになりますので、議論ということになりますとなかなか場所がないのかなあというふうに思ってます。

コンサルは基本的に勝手に考えてするわけではないわけですね。市民の皆様の意見とか市役所の考え方とか、あとあるいは私の希望とか、そういったものを可能かどうかと専門的ないろんな知識を駆使して判断しながら、これは成立すると思われるものについて具体的な数字を練り上げていくということになりますので、したがって、コンサルが適当にやるというのはもう全然当たっておりません。実は、ほくとう総研みたいなコンサルティングは私も経験したことはないんですけど、ある程度コンサルはしたことがありますので、非常にレベルの低いコンサルですけども、でもほくとう総研の方と話してみますと、相当な今までの経験と豊富なデータ、

そして素晴らしい人材がいるところだなあと
思いましたので、むしろ向こうから提案をして
くださる可能性が十分にあるというふうに思っ
ておりますので、そういった中で議会の方とも
議論できればおもしろい素案ができるんじや
ないかなと思っております。

○安部 隆委員長 3番、江口忠博委員。

○3番 江口忠博委員 私が先ほど申し上げた
質問に、ほかの地域で中心市街地活性化計画
なんかやってるところは、市と商工会議所あ
るいは商工会、あと民間、三者でやってる
ところが多いんです、民間というのはまち
づくり会社ですけども。まちづくり会社
が自然発生的にふっとわいてきたわけは
なくて、だれかが背中を押さないとなか
なか起きないんですよ。以前市長がおっ
しゃってた、まちづくり会社というもの
があればもっと進むんだという話もされ
てたような気がするんですが、私がこの
間伺った白河市でも、やはり市がある
人をやらないかと、そんなことを唆し
たと言えれば大変語弊がありますが、
その気にさせて人をつくっていった
という話をお聞きしました。

本町の活性化、街路事業ですけども、あ
そこも中心市街地として、ずっと市長も
おっしゃってましたけど、あそこは西
置賜の中心なんだということも前から
おっしゃってた経緯もありますので、あ
そここの今度の計画されてるところの
かわの駅の距離感というのは短い距
離なのか、なかなか歩くには困難な距
離なのかよくわかりませんが、ただ、
1万4,000台日中通るんだという
あのバイパスであっても、ほとんど
朝夕なわけですよ。

私、この間、産建の協議会でも申し上
げたんですが、小布施町という長野県
の本当に有名になった観光地がありま
す。修景事業を通してですけども、有
名になりました。今はでも入り込み
数は下がってるんですね。あそこが失
敗といってしまうか、課題としてず
っとあったの

は、やっぱり回遊性なんです。そこ
だけであつどこにも回らないという
ところがあったものですから、です
から小布施町全体から見るとスポ
ットの北斎館でありますとか、あ
かりの博物館でありますとか、あ
あいったところが中心で、ポ
イント的には非常に華々しく光
ってるんですけども、まち全体
にはなかなか波及効果が及ん
でないということもあるわけ
です。

ですから、そういった実態も少し
勉強してみますと、先ほど申し
上げた拠点が二つ、三つという
のは、市長がおっしゃって
る總宮神社があり、あやめ公
園があり、あるいはやませ蔵
さんがあり、いろんな史跡も
あるんだという、その拠点と
して私カウントしただけで、
新たに社会資本がどんとこ
れから入ってくるようなと
ころを拠点として見た場合
に、ここと本町と、ある
いは駅前付近の拠点がち
ゃんとうまく有機的につ
ながっていくのかという
ことも心配だなというの
はあるんです。それがな
ければ人が入ってこない
という政策では、もう私
の感覚と違うものです
から、その議論したいな
ということを申し上げて
たんですが、ちょっと
余り時間もないので、
これからの総括される
議員の方々の議論に
も少しゆだねたいと思
います。

次、交流人口から定住人口へという
ところで、私は少し質問させていただきます。

昨年この部分については質問した
んですが、西根の古代の丘で行われ
た「ぼくらの文楽」というイベント
です。市長もこの主催者とはお会
いになって、いろいろご意見を述
べられたのか、向こうからお願い
をいろいろ受けたのか、詳しい
ことは存じ上げませんが、お会
いになったという情報が入って
おります。

今回の彼らがやっていること
のコンセプトの一つに、5,000
人とかたくさんの方を集める
イベントをするよりも10世帯
の定住を目指すんだという
非常にありがたい、今ど
きの若者にはおやおや
という、大変先をちょっと
見据え

たコンセプトを持ってるなあというふうに関心をしたんですが、市は今回のイベントに対してどんな支援を考えておられるか、あればお聞かせ願いたいと思います。

○安部 隆委員長 内谷重治市長。

○内谷重治市長 以前にも江口委員のご質問でお答えしましたがけれども、せっかく若い人たちが独自の発想でいろいろ苦労もおありだと思うんですけども、なさってるそういった活動、イベントに市のほうで余り邪魔をしてはだめだろうと。ですから、この部分で手伝ってくださいと言われてたら喜んでお手伝いをする。ここの部分で困ってるんですけどと言われてたら喜んでアドバイスする。そして、何か必要だったら人的にも、お金を出すこともいとわないだろうと、ただし、ほどほどのかわりぐあいでない、かえって多分壊れるだろうという話しました。それは今も変わりません。

2週間ぐらい前だったと思うんですが、西根の地区公民館長さんのほうでイベントの主催者の2人の方と一緒に越しになりまして、いろいろ懇談したところでした。その中で、ことしもぜひやりたいと、うちお一人はもう既に草岡にうちを今建ててるという話で、定住してるんだよという話で大変うれしかったんですけども。ことしのイベントについては、私も去年の失敗点というのは幾つか聞いてましたので、そのところは地区公民館のほうでできるだけ協力していただいて、うちで協力しなきゃいけないところは言うてくださいと、例えば使用料なんか、可能な限り減免するとかということもことしもするわけですが。

その中で、出前市役所をしたいというようなお話がございましたので、多分長井市に興味を持った方に、例えば農業をしたいんだとか、あるいは観光はどういうところがあるかとか、いいところを教えてくださいとか、そういうことだと思っただけですね。あと、定住するにはどうし

たらいいかとか、そういうお話がありまして、同時に市長も我々スタッフと一緒に対談みたいなのでくれませんかと言われてたんで、喜んでというお話をしたところです。出前市役所については、具体的にこれからどうするか詰めなきゃいけないと思いますが、基本的に彼らをいろんな意味で応援したいというふうに思ってます。

○安部 隆委員長 3番、江口忠博委員。

○3番 江口忠博委員 ありがとうございます。ぜひ応援してあげてほしいんです。

市長がどうやって対談されるかわかりませんが、ことしも県外から多くの方々が、若者あるいは小さいお子様連れのご家族がお見えになると思うんです。その方々に対して、市長は、長井市のよさとしてどんなことをメッセージとしてお伝えになりますか。メッセージです、市長からのメッセージ、長井市を伝える言葉としてどんなふうに言葉を使われるか。

○安部 隆委員長 内谷重治市長。

○内谷重治市長 非常に難しいんですが、やはり若い人たち、どういう方たちがいらっしゃるかというのは、私も会ってないのでイベント主催者しかわからないんですが、彼らは多分都会に今まで住んでいて、いろんなやりきれないものを持ってたと思うんです。1人の方は地元、西根出身の方だっておっしゃってましたけども、いろんなところで働いて、いろんなところで住んでみて、本当にここが自分の暮らしたいところだったのか、今の暮らしが本当に自分だけじゃなくて家族にとっていいのかということも多分悩んでる方たちがいらっしゃるんだと思うんですね。

やっぱり自分のこれからの生き方とか、あるいは求めるものを探していらっしゃるんだと思うんです。そういった意味では、長井市はいろんな要素があるところですよということを、余りきれいごとばかり言ってもしょうがありませんし、仕事とかは何もないと、ただ、空気は

きれいだし、山川は本当に美しいよと、そして水も安心だし、農産物もおいしいと、こんな長井市でよかったらということぐらいですね。あんまりいいことを言ってもしょうがないのかなというふうに思います。

○安部 隆委員長 3番、江口忠博委員。

○3番 江口忠博委員 いいことをたくさん言ってほしいと思うんですが、この今質問申し上げてる大きなタイトルに「交流人口から定住人口へ」と私は大きくタイトルをつけさせていただきました。交流人口何人で定住人口1人を賄えるんだという、経済効果からいうといろんな数字があります。けれども、やっぱり住んでもらいたいということは、これはのどから手が出るほどそういった思いがあるわけです。ですから、3万人復活という、これはキャッチフレーズかもしれませんが、そういった人口増を目指すんだということも、意味はやっぱり定住人口の増加を目指していきたいと、あるいはこれ以上減らさないということでもいいんですよ。定住ということを私たちは考えていかなきゃいけないと思うんです。

そのときに、昨年ぼくらの文楽へ私が講演者として呼ばれて話をして、周りにずっと集まっていらっしゃるような方々を見ると、本当に先ほど市長がおっしゃったように、都会で疲れたような方ももちろんいらっしゃいますし、新しい暮らし方、生き方、あと、次の住み家なんていうのを探してらっしゃるような方々も結構いらっしゃるというふうに感じたわけです。そういった方々が長井市に来られるというふうに想定したときに、やはりここのまちに住んでほしいというメッセージももっともっと強く私は出すべきだろうと思うんです。

ですから、余り誇大のことを、うそを言っちゃいけませんけども、正直なところ言って、長井市はこんなふうなまちを目指してるんだということも含めて伝えていただきたいなと思う

んですが、行政のほうでは、例えば子供医療費の減額であるとか、無料化であるとか、いろんな子育て施策についてはさまざま政策を持っているわけですが、定住をこれから促していくのに何か効果的な政策をお考えか、あるいは今の政策の中でこれが効果的であろうということが、そういったものがあればお聞かせ願いたいと思います。

○安部 隆委員長 内谷重治市長。

○内谷重治市長 長井市の場合は、平成22年度まで集中改革プランで、過ぎてみればこういう状況ですけど、これからだと思います。残念ながらばらまきはやっぱり厳に慎むべきだと、ばらまきですよ、一種の、そういうふうに思っています。私は我慢してきたところです。

例えば、この周辺でも第1子が生まれたら幾ら幾ら、第2子はさらに幾ら幾ら、第3子はこうだよという、そういうことをしたらというふうに随分ありました。子供をふやすためにやっぱり祝い金出すべきだわ。あと、長寿祝い金すらゼロにしたわけですよ。やっと集中改革プランを終わって去年あたりから復活させていただきましたけれども、そういう状況ですから、これからとして考えたいことは、例えば、新しく外から定住されてうちを新築された場合の支援策とか、あるいは新築しないまでも、こちらへいらしたときの支援策とか、そういったことはいろいろ考えるべきものであろうと。

ただ、そういったところもやっぱりいろんなところから総合的にいろんな意見を聞いて、平成26年度の第5次総合計画あたりからスタートするようにすべきじゃないかなと。ですから、ことし、来年でいろいろ検討すべきだなあというふうに思っておりますので、むしろ江口委員からもこういうことをやったらいいんじゃないかということをご提言いただければありがたいと思います。

○安部 隆委員長 3番、江口忠博委員。

○3番 江口忠博委員 ありがとうございます。

ながい市民未来塾の中で、下平先生のゼミですが、SWOT分析というのをやっております。簡単に言ってしまうと、市長ももちろんご存じのことと思いますけども、地域の持つ強みとか弱みとか、ウイークポイントということですが、あとは機会、今、社会的な環境を見たときに、どういう状況に置かれてるかというところを機会ととらえて、じゃあどうするかというところとか、あとは脅威ですね、非常にどうしようもないという、例えば今の円高というものに対しては、それは脅威ととらえなければいけないこともあるし、あれを機会ととらえてもちろん輸入される方もいらっしゃるんですけども、地域にとっては脅威であると、そういったSWOT、S・W・O・Tという字を書きますけども、分析があるわけです。

長井市の場合の強みとか、弱みを幾らいっばい上げてもしようがないんで、強みと思われるところをいっばい上げていくわけですけども、ゼミの中でもさまざまな長井市のよさ、地域資源というふうに言葉を言いかえてもいいかもしれませんが、たくさん上がってきます。でも、その中で総花的になってしまっていて、どれが本当に強みを生かして、これが外の方々に求心力として伝わっていくのかということを考えますとなかなか攻め切れなくているんですね。プラス、もう一つ、機会という、今の世界の情勢であるとか、国内情勢であるとか、あるいは例えば原発問題から発生したように今の命という部分の問題、地域ということの問題、そういったことを考えますと、代表的な言葉としてはきずなという言葉で語られてますけども、ちょっときずなが今求められているようなことを機会と、チャンスととらえて、長井市をどういうふうに売っていこうかというふうなことがこれから戦略としては必要なのではと思うんですが。

長井市には、例えば平成元年に不伐の森条例

なんていうのをつくりました。これ世界初の自治体としての条例だったそうですが、あともちろんレインボープランという、今や国内外でもそれこそ循環型社会のモデルとして推奨して下さってるものがあります、考え方があるわけです。そういったものを地域の力として、資源として打っていくということは、これからはもっともっと求められていくんだろうと思うんです。

市長がおっしゃってた、経済的な便益性を市民の方々にいろいろ与えるというか、提供するというだけでは続かない部分もあります。ばらまきというふうにとられてしまう場合もありますし、そうでなくて地域に深く太く流れている地域の哲学みたいなもの、理念みたいなものがこれからは人を引きつけていく魅力になっていくんだろうと思うんです、外の人をですよ、引っ張ってくるときに。

そういったことで考えますと、ここで一つ提案があるんですが、宇治紫文さんがいらっしゃいます、人間国宝の。あの方も地域の大きな、私は資源、もちろん宝でもあるわけですけども、あの方の教えとか生き方というものをきちっと私たちは学んでいくべきだろうと思うんですね。それがまた大きな力になってくると思うんですが。唐突で恐縮なんですが、人間国宝、宇治紫文さん、名誉市民であります。あの方の業績も含めて、あの方を長井市できちっと市民の方が顕彰していくという、たたえながら勉強していくという機会なんかつくれないものでしょうかね。宇治紫文さんをたたえて、そして宇治紫文さんを研究したり、一中節を研究したり、つまりは本当の長井市民の宝としてとらえていくための手法などないものでしょうか。

○安部 隆委員長 内谷重治市長。

○内谷重治市長 宇治紫文先生については名誉市民としてたたえて、そして長井市出身の初めての人間国宝ですから敬意を表してるわけですが、

今、江口委員がおっしゃったようなところまでは考えておりませんでした。したがって、ぜひ市民の皆さんには知っていただくということで、入り口のロビーのところに紹介のコーナーを設けさせていただきましたが、なお、ご本人からのご協力がなくなかなかできませんし、ついこの間もお越しいただきましたけれども、どういうふうなことができるか、ちょっと検討してみたいと思います。

○安部 隆委員長 3番、江口忠博委員。

○3番 江口忠博委員 済みません。急な質問で申しわけなかったですけども、やっぱり宝として、先ほど申し上げたように、長井市にいっぱいある資源も本当に市民の方々が資源として、宝として、誇りとして自覚されてるかというと、意外とそうでなかったりするんですよ。後から気づきで、あれがあったね、確かにねというようなどころではたくさん出てくるんですよ。でも、ふだんからそれを自分たちの心にちゃんと落として、誇りとしてここにちゃんと立脚して住んでいこうというには、まだまだ宝物の磨き方が足りないというふうに思ってるものですから、宇治紫文先生は本当に気さくな先生でもいらっしゃいますし、ぜひお元気なうちに、本当に長井市の方々の心にちゃんと落ちるような私たちは啓蒙活動、研究活動などもしていくべきだろうというふうに思ってますんで、そのところはちょっと質問の中には入ってませんでしたが、お願いしたいと思います。

私は、これから市長は3万人復活ということもずっと以前から述べられていて、そのための道の駅であったり、そのための交流人口をふやしていきながら経済の活性化あるいは雇用の場の確保をつくりながら、そして定住までつなげていくんだという、そういうずっと脈絡はわかるんですけど。先ほども申し上げました、世界で初めての不伐の森条例というのをつくったり、レインボープランという20数年前に市民の方が

発案した考え方が今でも継承されているという長井市は、非常に初めてというのが長井市は結構多いのかなと思うんですが、ここでもう一つ、初めてを提案したいと思うんですけども、長井市に定住してくれた方に、例えば1年間米1俵、10年間これを差し上げるとか、そういったことのプレゼント付きの定住促進ということも私はいいんだろうと思うんです。

その意味づけは、これから長井市でぜひ命をつないでいただきたいということをメッセージとして述べていただきたいのです。長井市はちょうど3,000町歩という田んぼ、畑があります。3,000町歩というのは、食料自給を考えたときにちょうど3万人が暮らすに足りる耕作面積であるという試算も出ているぐらいで、そしてプラス長井市には本当に豊かな水があります。水と、そして前から「択里志」のさとなんていうことも時々話題になったりもしましたけれども、本当に生きとし生けるものが暮らすに適地だという、非常に適してると言われるこの地形と田畑と水と、ここで命をつないでいこうという思想のベースになるのが循環型社会だったりするわけですね。

長井市は循環型社会でも環境省からも表彰も受けてますし、そういった意味では、ここで命をつないでいこうということをこれから市の一つのメッセージとして伝えていくには、レインボープランの米でもいいんですが、定住してくださる方には米1俵、子供さんには30キロ、10年間。そうしますと、定住してくださった方はここではもちろん市民税も納めていただくことになるかもしれませんが、いろんな買い物もしていただくことになります。消費活動をしていただくことになると、1万6,000円ぐらいの財政投資をしても、相殺すればそれほど大きな一方的な持ち出しだけにはならないだろうと、バック、返ってくるものがあるだろうということをお考えますと。私は、今までよく北海道では

土地をただで上げますから定住しませんかというのがよくありました。でも、やっぱりこれからは命をきちっと保障してあげる、保障といいますが、約束ですね、命のもとを約束してあげられるというのが今の時代性から考えてもちよっと大きな話題になりはしないかなということもありまして、そんな提案をさせていただくんでありますが、市長、どのようにお考えか、感想を聞かせていただきたい。

○安部 隆委員長 内容重治市長。

○内容重治市長 江口委員がおっしゃったプロジェクトというか、大変なかなか発想的には出てこないすばらしいご提言だというふうに思います。

それで、あらかじめちよっと江口委員からそういったご提案もあるかもしれないということで調べさせていただきましたところ、飛騨市のほうで米10俵プロジェクトというのをやってるんですね、もう既に。やっぱり同じことを考える人は世の中で7人いるというのは確か、既にやられていたということなんです、10年間1人1俵ずつということで、これは飛騨は飛騨で我々は我々でまたちよっと違いますから、これは大変おもしろいアピールの仕方じゃないかなというふうに思いますので、ぜひ検討はしたいと思います。

あと、江口委員は長井市内に年間どれぐらいの方転入されてるかってご存じでいらっしゃるかどうかですけれども、500人ぐらいはいらしてるんですよ。ただ、出てく人が700人ぐらいいるもので、社会的な減少で200人ぐらい減ってるんですね、それから自然減でやっぱり200から300減ってるということで毎年四、五百ずつ減ってるわけですけれども。そうしますと、転勤で来られた方なんかをどうするかということですね。そうした場合、飛騨なんかでは、定住ということで、うちを新たに買われたとか、あるいは自分で建てられたとか、そういうちよっと

条件はつけてるみたいなんです、考え方としては、命と自然を守るということで、家族もみんなで長井市で命をつなぐという意味で、米と水をしっかりと保障するということはおもしろい考え方だなと思いますので、これから第5次総合計画なんかでその辺なんかも何か施策としてまとめられればと思います。

○安部 隆委員長 3番、江口忠博委員。

○3番 江口忠博委員 ありがとうございます。

前向きなご答弁いただいたと思っております。

やっぱりこれからは命の時代に入るんだろうと思います。原発の事故においても、あとTPPの問題においてもそうですけれども、すべからず経済が優先して行って今回の再稼働にもつながっています。経済というのは一面命を支えているという側面もあるわけですけれども、しかし、命のもとであるのは水と食べ物なんです。

これ、落語家の名人なんです、古今亭志ん生の落語の中に「黄金餅」という落語があります。その中のくだりに「金は天下の薬だ」と、そういうくだりがあるんですよ。お金は確かに考えてみますと薬でありまして、使いようによっては効果もあるし、あるいは毒にもなったりもするんですね。ですから、非常にお金が確かに命を支えてるということは、これは言えるんですが、そのもととなっているのは、やっぱり食べ物だったり、水だったり、空気だったりするわけです。ここのところは私はこれから絶対的な価値を持ってくるだろうと、これから田舎はもっともって価値を持ってくるのは、そのところにポイントを当てた政策をとるかとらないかだと思っておりますので、これから東京を離れて、あるいは大阪を離れてこちらのほうに向かってくる方々は、今すぐではないかもしれませんが、やがてはふえてくるんだろうと思います。そのときに、「ここで命をつなげるよ」というメッセージが大きな大きな声となって日本じゅうに上がっていくと、長井市は3万

人どころじゃなくて、以前4万人が多分一番長井市では限界なんじゃないかと、今の長井市のインフラ整備から見ても市長お答えになったときがありましたけれども、そのぐらいまで行くかもしれないということまで夢を見てるわけです。大きなメッセージとして、ぜひ命の時代到来、長井市で命をつなぎましょうというメッセージも第5次総合計画あたりにはぜひ高らかにうたっていただければと思うんですが、議論を少し前に戻しまして、先ほど来、言っていました、かわの駅の話にもう一回ちょっと戻らせてください。

このかわの駅の中の計画書で、ちょっとお尋ねしたい点が何点かあったんですが、この間の産業・建設常任委員会の協議会の中での課長からのお話の中であったのです。今回いただいた報告書、議事録の4ページ目に載ってるんですが、ちょっと読みます。休憩とか、交流とか、地域連携による個性豊かなにぎわいの場の創出については、長井市の道の駅固有のテーマ、最上川の魅力を生かした、かわと道の駅づくりが必要なんだと。ずっとありまして、観光ネットワークの拠点として、観光案内、情報提供の役割を考えてると。また、フットパスを利用したネットワークを促進して、市街循環バス、徒歩、自転車による市街観光を行うための交通の結節点としての機能を考えていますということがありまして、5ページ目なんかにも、いろいろ市民直売所や物産館を運営してきたノウハウを生かして、これからかわと道の駅をいろいろ具体化していくんだということを述べられたんですが、今ある菜なポートでもことしあたりいろんな実験をされると思うんですね。その中に、かわと道の駅をにらんだ実験をぜひすべきだと、つまりあそこから例えば市内循環バスのハブとしてあそこを使ってみるとか、そんなこともできると思うんです。

そこのところの実験をいろいろやらないで今

まで来たわけですよ、あの菜なポートの場合は。私、何回も質問でも今まで申し上げました。どんな実験をしてるんだと、どんなデータを集めてるんだということも質問で申し上げてきましたけども、なかなか芳しい答えはいただけなくて、24年度いろいろ見直して頑張るんだという答弁もいただいたものですから、ぜひ今こそ菜なポートをいろいろな実験材料として活用すべきだと思うんですが、それのお考えは、もう6月ですけども、これからお考えあるかどうか、市長、お考えあれば。

○安部 隆委員長 内谷重治市長。

○内谷重治市長 江口委員がおっしゃった部分の実験というのは、確かにちょっとしてない、弱い部分だったなあとというふうに思います。店舗としての実験はしておりますが、やはりまちなかの循環という部分についてはしていません。

もうあやめの時期で大体観光客というのは一段落、あとは水まつりのときとか、あとは秋の紅葉の時期とかなどはそれなりのお客さんがいらっしゃると思いますので、ちょっと地場産業振興センターあるいは商工振興課、観光振興課などと協議しながら、どんなことができるかをまずいろいろ検討しながら、あとまち・住まい整備課のほうもかかわってくるわけですから、土日の循環は今行ってるわけなんですよ、循環バス、この時期。その辺の企画調整課も含めて、早急にちょっと検討して、しばらく、ことしだけじゃなくて来年、再来年と何年かはあそこで営業すべきだというふうに思ってますので、いろいろ実験を試みたいと思います。

○安部 隆委員長 3番、江口忠博委員。

○3番 江口忠博委員 その辺はいろんな角度から実験の場所として菜なポートを活用すべきだと思っておりますので、何も成功する必要はないんです、実験ですから。そのデータをまず集めながら、次の長井市の未来のステップとしていければいいと思っておりますので、十分これから検

討をお願いしたいと思います。

若干時間があるんですが、これで質問を終わります。ありがとうございました。

今泉春江委員の総括質疑

○安部 隆委員長 次に、順位5番、議席番号4番、今泉春江委員。

○4番 今泉春江委員 日本共産党の今泉春江でございます。本日、最後かと思いましたが、休憩前の、質問となりました。お疲れですが、よろしく願いいたします。

通告してあります大きい2点について質問いたします。過日の一般質問でも私が質問しておりますが、時間もなく、お聞きできなかったこともありましたので、また質問いたします。よろしく願いいたします。

一つ目の地域経済活性、雇用創出について質問いたします。

まずその一つ目の市民の切実な願いを実現してこそ市は活性化するのではないかとことです。市長は、一般質問の梅津議員の答弁でも、困っている市民がたくさんいます、雇用の要望を提案してくださいと、正面から討論してくださいとお話されております。私は、介護や福祉サービス向上と合わせた雇用の創出について過日提案いたしました。私は、地域の経済活性はまず雇用だと強く思います。その雇用の創出は、市民の切実な願いを実現してこそ市は活性化するのではないかと思います。市長、いかがでしょうか。

○安部 隆委員長 内谷重治市長。

○内谷重治市長 そのとおりだと思います。

○安部 隆委員長 4番、今泉春江委員。

○4番 今泉春江委員 そこで、私は一般質問で雇用の創出ということで、特別養護老人ホーム

への入所希望者、現在137人の待機者がおります。これを解消し、市民が願っている切実な願いがここにあります。そして、これを解消し、その中で雇用も創出するという特別養護老人ホームの建設を提案いたしました。また、認可保育園建設ということで、子育ての方々の認可保育園入所希望、そして希望する認可保育園に入れない待機児童の解消、それにより今度母親たちの仕事への復帰、また建設により保育園での保育士さんなどの雇用などで具体的な試算をし、提案いたしました。これも市民の切実な願いと思いますが、いかがでしょうか、市長。

○安部 隆委員長 内谷重治市長。

○内谷重治市長 一般質問でもお答えしましたように、今泉委員がおっしゃることはごもっともだと思います。

○安部 隆委員長 4番、今泉春江委員。

○4番 今泉春江委員 そこで、再度お聞きします。

市は市民の雇用創出の取り組みということで、一般質問でも市長が答弁なされておりますが、この雇用創出の取り組みがどのように進んでおられるか、お伺いしたいと思います。進みぐあいをお聞かせください。

まず、企業誘致は難しいと市長はおっしゃっております。事実、去年は製造業2社で5人ということでした。現在の中小企業の既存の300社の現状はどうなっておりますでしょうか、お伺いいたします。

○安部 隆委員長 内谷重治市長。

○内谷重治市長 まず、私のほうで、行政でございますので直接雇用は別として、やはり産業の振興なり、さまざまな地域の活性化を図っていく中で、それぞれ民間の企業の皆様あるいは事業所、または自分でいろいろ業をなさる方、そういった方々に雇用を守り、創出してもらうためのお手伝いをするということが私どもの仕事でありますので、そういった意味では、計画が